

拝見!
10枚の愛蔵コレクション



ベアタ島DXペディション

ドミニカ共和国(1979)

ドミニカ共和国のアマチュア無線家たちによる、ベアタ島DXペディション(本文参照)を記念したもので、切手を囲むように配された文字のうち、右に書かれている“HIIRCD”はラジオクラブのコールサインです。

私の
No.1



ARRL 50年

アメリカ(1964)

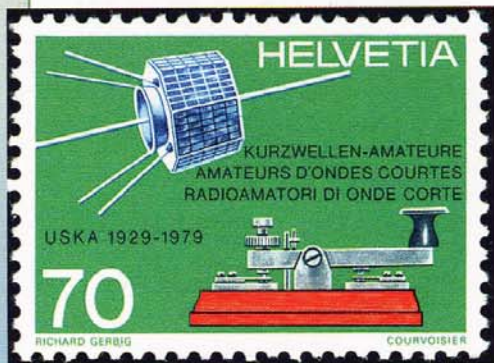
米国アマチュア無線連盟「ARRL」創立50周年を記念した切手。1964年3月27日(現地時間)のアラスカ大地震の際、アマチュア無線家が活躍したことから、アンカレッジ(アラスカ州の最大都市)では1日早く先行販売されました。



アマチュア無線50年

日本(1977)

1927年9月、草間貫吉氏にJXAXXというコールサインで短波私設無線電信電話実験局が免許されたのが、日本のアマチュア無線の始まりです。切手はその50周年を記念したものです。



*電鍵…モールス信号を出力する装置。

USKA 50年

スイス(1979)

スイスのアマチュア無線連盟「USKA」創立50周年記念。通信衛星と電鍵*でんげんがデザインされ、スイスで使われている3つの言語で「アマチュア無線」と書かれています。

王立ヨルダン・アマチュア無線協会

ヨルダン(1983)

アマチュア無線家として有名な故フセイン国王(コールサインJY1)と、王立ヨルダン・アマチュア無線協会のロゴがデザインされています。



ボーイスカウト75年

アセンション(1982)

ボーイスカウト75周年を記念した4種のうち1種で、ジャンボリーキャンペーンでアマチュア無線局ZD8JAMを運用しているところが描かれています。



切手は拡大150%
()内は発行年

アマチュア無線の切手

郵趣と同様、趣味の王様と言われるアマチュア無線は、国際的な趣味としても共通性があります。ラジオ少年だった私は高校時代にアマチュア無線を知り、JA3AERのコールサイン(無線局の呼び出し符号)でアマチュア無線を始めました。以来50有余年になりますが、技術的な興味だけでなく、それを通じた国際的な交流に意義を感じています。

日本を代表するアマチュア無線の団体は日本アマチュア無線連盟(JARL)ですが、各国にも同様の連盟があり、その国のアマチュア無線の始まりや連盟創立の周年を記念した切手が多く発行されています。また、上位団体として国際アマチュア無線連合(IARU)があり、国際会議を記念した切手やロゴを図案に入れた切手などもあります。

そのほか、国際通信年やボーイスカウト・ジャンボリーなどの記念切手にアマチュア無線が描かれたり、災害や遭難救助活動としての非常通信、DXペディションと呼ばれる離島など僻地で一時的な無線局を設置しての通信、アマチュア衛星通信、国際的な通信コンテストなどアマチュア無線の活動を描いた切手も発行されており、バラエティに富んでいます。

■荒川泰蔵(S189810)：1938年、大阪生まれ。切手収集はアマチュア無線とともに少年時代からの趣味で収集歴は約60年。ただし現役の多忙期は休暇状態で、定年退職後に再開。ゼネラルコレクターから国別コレクターとなり、現在はアマチュア無線の切手を中心に、通信関係の切手に絞る。アマチュア無線の月刊誌『CQ ham radio』に「アマチュア無線の切手」の記事を連載中。JPS河内長野支部及び日本アマチュア無線郵趣同好会(JAHSS)に所属。



世界通信年

サンマリノ(1983)

世界コミュニケーション年の記念切手2種のうちの1種で、若いアマチュア無線家がヘッドフォンを耳にあてて、受信している様子が描かれています。



スロベニア・アマチュア無線50年

スロベニア(2000)

スロベニアのアマチュア無線50年の歴史と、2000年にスロベニアで開催されたWRTC 2000(World Radiosport Team Championship)という国際的な通信コンテストを記念したものです。



アマチュア通信衛星

ソビエト連邦(1979)

ソ連が1978年10月に打ち上げた2個のアマチュア通信衛星、「RS-1」および「RS-2」(Radio Sputnik)を記念して発行されたものです。

LIBERIA 25年



リベリア(1987)
リベリアのアマチュア無線協会であるLRAA創立25周年を記念した4種のうちの1種です。仕事上の2人がアンテナを支え、もう1人が木陰でアマチュア無線を運用しているユーモラスな姿が描かれています。